

山口大学大学院医学系研究科 新任教授ごあいさつ

第6回 整形外科学講座教授

坂井 孝司



平素より当科の臨床及び研修教育にご協力いただき誠にありがとうございます。平成30年7月1日付で、山口大学大学院医学系研究科整形外科学講座教授に着任致しました坂井孝司と申します。着任後、おかげさまで丸3年を迎えました。このたびは、山口県医師会報への原稿執筆の機会を賜り誠にありがとうございます。謹んで山口県医師会の皆様にご挨拶を申し上げます。山口大学整形外科学講座は中国・四国地域で最初に開講された伝統ある整形外科学講座で、1948年に初代伊藤鐵夫教授が着任されました。第2代服部奨教授、第3代河合伸也教授、第4代田口敏彦教授は脊椎脊髄外科を中心に主宰され、私はその流れに専門である関節外科を併せて対応させていただきたいと考えております。

私は大阪府堺市の出身で、中学・高校は鹿児島ラ・サール学園で学び、平成5年3月大阪大学医学部を卒業し、大阪大学整形外科学教室に入局致しました。関連病院での一般整形外科研修のうち、平成9年4月大阪大学大学院医学系研究科に進学し、特発性大腿骨頭壊死症（実験的骨壊死）と人工股関節（カスタムメイド人工股関節の開発）に関する研究を行い、平成12年1月から日本学術振興会特別研究員（DC2）となり、平成13年3月に学位を取得致しました。平成13年4月から5年余り、市立池田病院、国立大阪医療センター整形外科で主に関節外科の臨床に携わりました。平成18年7月から大阪大学医学部附属病院整形外科・リハビリテーション部へ赴任致しました。平成30年7月から山口大学整形外科を担当させ

ていただき、平成3年4月から山口大学医学部附属病院院長補佐を拝命し、コロナ禍の病院の状況に少しでもお役に立てればと尽力させていただいております。

専門は股関節外科、人工関節、リハビリテーションであります。「真剣にかつ楽しく」をモットーに診療及び研究を進めて参りました。Biologyの面では、指定難病の一つである特発性大腿骨頭壊死症の厚労省調査研究班に大学院入学時から現在まで携わり、研究分担者として同疾患の病理病態の解明を念頭に臨床・研究を進めて参りました。2020年から骨壊死の国際学会であるARCO（Association Research Circulation Osseous）のVice President（Japan）を拝命しております。臨床面では、近年骨関節領域におけるコンピューター支援技術の実用化はめざましく、CT-basedナビゲーションや手術支援ガイド、カスタムメイド人工関節の開発を推進して参りました。こうした技術を股関節手術に適用することで、術後脱臼を生じない人工股関節全置換術における正確なインプラント設置や、術前計画どおりの骨盤骨切り術などを施行して参りました。また、金属の3Dプリンターである積層造形法による人工関節開発に携わり、積層造形法による大腿骨インプラントの薬機法承認を本邦で初めて平成29年度に取得致しました。

現在は日本医療研究開発機構（AMED）の医工連携事業に参画し、積層造形法によるインプラントの骨形成を促進するような表面加工の開発に取り組み、さらに良好で旺盛な骨形成が得られる

インプラントの実用化を目指しております。また正確で理想的な股関節手術の機能的予後を検証するため、術前計画通りの正確な股関節手術を行った後、患者さん個々の改善度合いについて活動量などを指標として評価しつつ、動作制限のない人工股関節全置換術後のリハビリテーションの確立にも取り組んでおります。

山口大学の教職員の使命として、いかに若い先生に山口に残ってもらって山口県の医療を安定させるかが重要です。整形外科も同様にマンパワーがなければ臨床も安定せず、ましてや研究どころではありません。人材の確保に努めることは必須であり、教育面を重視して学生・研修医との接触を密に良質な人材育成に努めていきたいと考えています。また、学生・若い医師にとって魅力ある研究を推進し、魅力あるキャリアデザインが描けるような教室を構築していきたいと考えます。その一例として、関連病院の一つである山口県立総合医療センターに今年から骨関節手術用ロボットが複数導入され、人工股関節・人工膝関節手術が可能となっています。骨関節手術用ロボットは、山大病院のCT-based ナビゲーションとともに非常に良好な精度の手術を可能とするツールで、日本国内ではまだまだ活用例が少ない状況ですが、

関係する先生方のご尽力・ご英断によって山口県に導入されたことは、整形外科における未来医療の山口県での実現に確実に寄与するものであり、その領域の医療に携わる一員として非常にありがたく喜ばしく思っております。

山口大学医学部附属病院は山口県の関連病院の中心であり、かつ宇部・小野田保健医療圏の基幹病院としての役割が求められています。特に、コロナ禍の現在、患者さん中心の安心で安定した医療の提供に取り組んでおります。ご存知のように整形外科は守備範囲が広く、脊椎、関節、腫瘍、手外科、スポーツ、リウマチ、小児整形など多岐の専門にわたります。山口県医師会の先生方のご期待に沿うべく、大学病院としてこれらの患者さんにしっかりと対応できる整形外科を引き続き構築して参ります。特に、私の専門である股関節外科にはコンピューター支援技術を導入して、骨盤骨切り術や人工股関節手術を行い、動作制限のないリハビリテーションを念頭に診療をおこなっております。山口県医師会の先生方におかれましてはコロナ禍の中、どうか無理をせずご自愛いただき、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

